

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：横浜国立大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○概ね計画通りの取組である。

コンソーシアムでの連携については、神奈川県、横浜市による協同関係により事業が進捗している。今後は、両大学同士の連携や大学として県や市に対する協同の取組を十分にやっていく必要がある。

平成30年度の就職率が低下しており要因分析が進められているが、目標値を達成するために、要因分析を踏まえた課題改善に向けた取組を進めることが必要である。プログラム参加者を増やすことが就職率向上につながる説明されていることから、プログラム参加者を増やすための解決策の策定と実施が求められる。

2. プログラムの内容の進捗状況

○概ね計画通りの取組である。

ポイント制により学生のモチベーションを高めている。今後、ポイント制の活用方法を明確化し、ポイント制普及策とプログラムの促進を結びつけていくことが期待される。

実施プログラムは着実に計画数に結びついているが、ビジネス日本語については、従来の日本語教育とは異なるビジネス日本語の教育を進める必要がある。キャリア教育講座は自治体の企画が多く、また両大学で独自展開しており、相互の関連性が無いように見える。両大学の双方でプログラムを展開し、一体化したトータルの内容として説明できるようにすることが望まれる。

3. 実施体制の構築、活動状況

○概ね計画通りの取組である。

県、市ならびに近隣の大学への展開を視野に入れた活動ができており、計画達成に向けた活動として認められる。

県や市が本事業を積極的にサポートしていることから、今後の事業の継続について自立発展性が高いと考えられる一方で、自治体や企業中心の体制であり、大学としての継続的な取組が今後の課題と考えられる。

4. 他大学が参考にできる事項等

○県や市による連携が進んでおり、自治体を巻き込んで推進するプログラムとして参考になると考えられる。